

1 図書館の動き

1.1 図書館長の交代

2015 年 4 月 1 日付けで林義勝文学部教授が図書館長に就任したが、2016 年 4 月 1 日付けで学校法人明治大学理事（非常勤）に就任したのに伴い、館長を退任した。よって 2016 年 6 月 1 日付けで、山泉進法学部教授（元副学長）が図書館長に就任した。任期は、前館長残任期間の 2017 年 3 月 31 日までである。山泉館長は、従来のスタッフ会議を組織上の執行機関に内規化して会議を活発化するとともに、学部間共通総合講座「図書館活用法」などの図書館諸施策の検討・充実を推進した。

1.2 図書館資料費の不足

図書館予算は、事務電算化処理費、図書費、一般経費、特定課題推進費から成る（6 財政（1）参照）。引き続く大学財政の悪化で、2014 年度以降、図書予算は漸減してきた。2016 年度の図書費は、前年度と比較すると 3.6% 微増したものの、学術雑誌の価格高騰や円安進行により、支払手数料・逐次刊行物費で購入する電子ジャーナルやデータベースなどの電子資料契約金額が、図書費全体の 66.3% を占め、その影響から図書予算は実質的に減少した。予算不足への対応策として従来の図書購入方法を見直し、継続購入図書・「シラバス図書」重複購入・加除式資料購読の削減を進め、高額資料の公募制購入は中止した。また Wiley 社電子ジャーナル・パッケージ契約を解体するとともに、未購読契約雑誌収載論文の入手方法として DDS（Document Delivery Service）の窓口を整備し、ILL（Inter Library Loan）文献複写依頼無料化の試行を学内周知した。ただし、こうした見直しの効果は限定的で、図書予算の不足傾向が継続すると、教育研究上に必要な図書資料の欠落が拡大するものと憂慮されている。

1.3 学術雑誌価格の高騰

価格高騰が続く学術雑誌への対応を雑誌・電子ジャーナル契約検討 WG において進めてきた。その一環として、2013 年度末をもって Elsevier 社のビッグディール契約を解消し、個別ジャーナル単位の契約に変更した。しかし雑誌関連資料費の拡大は続き、さらに円安の進行もあり、2016 年度決算において、図書館資料費のうち学術雑誌費が 66.5% を占めており、雑誌費の拡大に歯止めがかからない状態である。このため、図書館としては、さらに購読契約の縮小を勧めなければならないとの前提で、電子資料契約検討 WG にて対応策を検討した。その結果 Elsevier 社パッケージ解消後最大の契約先となった Wiley 社のパッケージを解消することとした。（次節参照）

しかし価格の高騰が今後もつづくとなると、さらに購読誌数を縮小させ続けざるをえず、この問題への根本的解決とは言い難い。学術雑誌によらない学術情報流通への根本的な変更を見据えた、機関リポジトリの構築と関連する学内体制の整備、オープンアクセスの推進が今後の大きな課題であろう。

1.4 Wiley 社ビッグディール契約の解体

前節で述べたように、学術雑誌価格高騰への対応として、2016 年いっぱい Wiley 社ビッグディール契約の解体することを決定した。パッケージ契約解体後の個別雑誌購読契約は、Elsevier 社の場合と同じく、次の計算式「DDS 単価 > 購読価格 / 年間アクセス数」が成り立つタイトルを選択し、それ以外是非購読、論文単位の購入を前提とした。なお、論文単価は後述する DDS（Document Delivery Service）で購入する論文 1 本の平均単価 33 円を想定した。その結果、購読契約したタイトルは 68 誌となった。

Wiley 社のパッケージ契約解体において、非購読誌の論文入手手段の確保が最大の問題であった。Wiley 社の場合、既にパッケージ契約を解体した Elsevier 社と異なり、図書館として論文単位の購入（Pay Per View）ができず、論文を入手する個人が代金を支払って購入するしか手段がなくなる。これはパッケージ契約の離脱を防ぐ、あるいは妨害する非常に悪質な契約形態であると評価される。このため、論文入手手段として Reprints Desk 社の DDS（Document Delivery Service）を契約することとした。これにより図書館の情報提供機能の維持を図ったが、論文単価に手数料が上乗せされより経費が高くなること、リアルタイムの入手がしば

しばできないことなどの欠点がある。費用的にも、大学院生・学生は無料としたが、教職員は一定金額の負担（論文1本当たり2,000円）をお願いすることとした。なお、論文入手の代替手段として論文複写依頼（ILL）の普及を図るため、これまでは実費負担だったものを無料化したことも、今回のパッケージ契約解体に連動するサービス変更であった。

1.5 リテラシー教育事業

リテラシー教育事業として、2013年度から教務部の教育開発・支援センターとの共催で開催している「アカデミックリテラシー教育研修会」を継続して開催した。これは、各学部及び図書館が行っているリテラシー教育を有機的に関連付けていけるよう、まずは情報共有することから始まり、2016年度ではほぼ一通りの学部と4図書館の報告を終えた。これまで年2回開催してきたが、2016年度は1回に留まり、中野キャンパスを会場にして11月10日（木）に開催した。理工学部と国際日本学部の教員からそれぞれの学部で行っているリテラシー教育について報告があり、図書館は中野図書館から報告した。

それぞれのリテラシー教育の実態を知ることで、授業と図書館の連携を強化していきたいと考えているが、研修会の参加者は非常に少ないことが課題である。そのため、ユビキタス教育事務室の協力を得て、研修会を録画し、大学HPからいつでも見ることができるようになっている。当日の参加者を増やすためには、開催時期や時間帯を考慮することはもちろん、広報、内容についても吟味する必要がある。

1.6 JUSTICE 事務局への人員派遣

大学図書館コンソーシアム連合（略称：JUSTICE）の事務局は、国立大学図書館2名、私立大学図書館1名の出向者、計3名で組織される。電子資料の比重増大化の中で、複雑な契約形態、価格高騰対応への国際的動向を見聞することは、今後の図書館業務に新たな見識やスキルを与えてくれる機会でもある。恒常的な要員不足の中でも出向要請に応え、2015年4月1日から2017年3月31日まで2年間の任期で専任職員1名を派遣した。

1.7 「城市郎文庫」の整理終了と『城市郎文庫目録』の刊行

2011年3月、発禁本の収集家である城市郎氏（2016年2月逝去）より図書・雑誌約9,000冊の寄贈を受けた。2012年5月には、中央図書館ギャラリーで「城市郎文庫展：出版検閲と発禁本」と題して発禁図書の展示会を開催した。その後図書の整理を開始し、約4年をかけて2016年8月に整理を終了した。「文庫目録」の作成にあたっては、戦前の内務省検閲に関する専門家で、千代田図書館に収蔵されていた「内務省委託本」の発見者でもある浅岡邦雄中京大学教授に「城市郎文庫目録」の監修を依頼し、図書館との協同作業によって2017年3月に『明治大学図書館所蔵 城市郎文庫目録』（575頁）を刊行した。

この冊子体目録の特徴は、戦前内務省から「発売頒布禁止・削除」等の処分を受けた資料、また戦後の刑法第175条による摘発資料、非合法出版された地下本などについて、『出版警察報』をはじめとする各種禁止本目録を一点ずつ確認し、その調査結果を書誌に注記したことにある。「筆禍」という名称のもとに目録化した資料は約1,500点であるが、一般図書・雑誌として収録した約7,500冊の旧蔵書には、城市郎氏が収集した発禁本関連資料や多くの稀覯本なども含まれている。「城市郎文庫」は和泉図書館に収蔵され、2017年度内に閲覧・利用に供される予定である。

1.8 「クリスチャン・ポラックコレクション」の整理終了

幕末・明治の日仏交流史の研究家でもあるクリスチャン・ポラック氏の収集したコレクションを、本学の130周年記念事業の一環として2012年に購入した。内容は、図書・雑誌以外にも、明治期の古写真、アルバム、写真乾板、ステレオ写真、ステレオスコープ、絵葉書、生糸商標、ポスター、ビゴアの挿絵や絵画など多岐にわたる。2014年4月～6月には神奈川県立歴史博物館と共催で「明治大学クリスチャン・ポラックコレクション 繭と鋼：神奈川とフランスの交流史」展を開催した。また、2017年1月には「明治大学クリスチャン・ポラックコレクション展：資料が語る富岡製糸場の日仏交流史」と題して、世界遺産となった富岡製糸場におい

て展示会が開催され、生糸に関連する多数の資料が出展された。

2016 年 12 月にすべての整理を終了し、総登録数は 13,025 件となった。その内訳は洋図書 6,728 冊、洋雑誌 2,711 冊、和図書 2,526 冊、和雑誌 1,060 冊である。図書以外の様々な資料については、中性紙のアーカイバル容器を制作し、箱単位の登録とした。また、写真乾板を含む写真資料は画像データを作成した。クリスチャン・ポラックコレクションは、中央図書館貴重書庫（1900 年以前に発行された図書・図書以外の写真資料等）と中央図書館第 3 書庫に収蔵した。

1.9 大型寄贈資料の受贈

大岡信ことば館（静岡県三島市）より、元法学部専任教授大岡信先生旧蔵書の本学図書館への寄贈の申し入れがあった。図書館としては、特色あるコレクションとしてこれを受入れ、中野キャンパス二期工事に伴い中野図書館の規模の拡張が実現した後、中野図書館の蔵書とすることとした。

寄贈図書約 15,000 冊（段ボール約 550 箱）は、全集、単行本、辞書・辞典、文庫・新書、美術書、洋書、その他とカテゴリー別に分類されている。寄贈図書は、2017 年 1 月 26 日（木）に本学へ搬送され、臨時的措置としてリバティタワー 19 階作業室（旧大学院コピー室）に保管した。